

## ●本計画が目指すまちの将来像

令和2年に開町120年を迎えた音更町は、先人たちが苦難の末に切り拓いてきた大地で、開拓の礎である農業を中心に、商業・工業・観光の振興と生活基盤の整備を進めるとともに、町民福祉や教育・文化の充実を図り、豊かな自然と快適な都市空間が調和した「住みよいまち」へと発展し続けてきました。

「住みよいまち」とは、買い物や医療・交通など、毎日の生活に不自由がないという経済的利便性に基づく暮らしの豊かさだけでなく、健やかで安全・安心な暮らし、地域における人と人との日常的なつながりや支え合いを通して、そこに暮らす人々の心も豊かになるまちのことです。

人口減少・少子高齢化が進む中、グローバル化の進展や情報通信技術の進歩に加え、気候変動や新たな感染症の影響など、現代社会は将来を予測することが極めて困難な時代を迎えています。

こうした変化に対応しながら、将来にわたって持続できるまちづくりを行うために求められているのは、目指すべき「まち」の姿を描き、その実現に向けて取り組んでいくことです。

音更町民も、町民以外の人たちも、「暮らし」、「学び」、「働き」、あるいは「訪れる」ことを望み、「住み続けたい」、「住んでみたい」と感じてもらえる、誰にとっても「住みよい」、「選ばれるまち」をみんなで創り、未来へつないでいくことを目指して、この計画におけるまちの将来像を次のように定めます。

## みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ